

文芸大賞

風鈴

埼玉県 蘇武 羊

あそこに小さな子どもがいると言
いは子どもは僕だと言
うじゃあここに僕は誰かと訊ねると
それは健だと名前を言う

風鈴が鳴っている
カランカランコロココロ
まだ蒸し暑い夜の風に短冊がなびく
子どもの僕を探しに
毎夜付き合わされた母の徘徊
ガラスの鈴に泳ぐ金魚とたゆたう水草は
あの頃の思い出を
走馬灯のように駆け巡らせる

そういえばこの風鈴は大鳥神社の縁日で

父が母に買ってあげたものだ
喜ぶ母に笑顔の父
ケロヨンのお面を付けた小さな僕は
何だかとってもうれしくなって
母の手をぎゅっと握りながら
賑やかな参道をスキップして歩いた
お盆もとうに過ぎている
母はもうあの世で子どもの僕を見つけられた
だろうか
カランカランコロココロ
どうやら秋はまだおあずけのようだ
風鈴を仕舞うのはもう少し後にしようか

優秀賞

偏西風

奈良県 高田 数豊

夜になって母に微熱が出た
母の頭の上の時計を見ながら
熱が下がってくれるのを待っている

激しく窓を揺する風は
吹き出したら三日は荒れる
妹が来て母の昼ごはんを済ませた
手を添えながらいつもより時間がかった

妹が誰なのか
僕が誰なのか
わかっている時と
わかっていない時と
聞いてもキョトンとしている
名前は呼んでくれなくなった

叫び返したい
吹き荒れる風に
気持ち削がれそうだ
母は母で
闘っているんだろうか
痩せた指で 顔を撫でている
風がおさまると
家のまわりのものの位置が変わっている
あしたは どんな機嫌でいてくれるのか
ふたりで冬を迎える
物干し竿一本の夕暮れ

優秀賞

ボクは休符

垂井町 石井 たえ

ボクは休符

休符だから

音が無い

誰かがボクを入れてもいいし

入れなくてもいい

誰かがボクに『息』を吹き込んでみると

そこにはたくさんの選択肢があった

ボクは跳び箱の前に置くジャンプ台のように

ハ短調だった曲をハ長調にしてみせた

ボクは音と音を繋ぐ橋渡しをしたり

奏する人の僅かな休息にもなった

ボクはメロディーに欠かせない『ピン』と張

り詰めた音をつくり出すことが出来たし

メロディーの終わりにある『ほっ』とする緩

みにもなれた

ボクは休符

ある時ボクは音だと気が付いて

音を愛するところへと

ボクはみんなと旅にでる